

シンガポール大学との国際交流

東京有明医療大学
看護学部看護学科
国際交流委員会

I. 初めての国際交流

学部長 金井一薫

看護学科の教育目標の1つに「国際交流を通して豊かな医療人を育成する」という項目があるが、今回のシンガポール大学との具体的交流は、まさにこの目的に叶うものであった。完成年度を迎えた看護学科として、まことに喜ばしい限りである。

交流の時期としても適切であったし、希望者だけの参加に限られたとはいえ、事前学習においても、また帰国後のまともにおいても十分なバックアップ体制のもと、大きな成果を得られたことは今後の発展の契機になるだろう。

一方、シンガポール大学からの学部生と院生の受け入れにおいても、関係者が全力で取り組んで一応の形を整え、今後の交流の礎を築けたのではないかと推察している。

シンガポール国全体の看護と看護教育の実態については、わが国にはほとんど紹介されたことがなく、その一部とはいえ、シンガポールの先進的な実践に触れて学ぶことができたことは、大いに有益であり意義があった。

次年度における2回生の募集が開始された。応募者たちが今年の成果を十分に学習したうえで、さらなる交流の輪が広がることを心から期待している。

今回実現した国際交流は、東京有明医療大学看護学部の新たな歴史を刻むことになるであろう。

II. シンガポール大学における研修

1. 研修スケジュールの紹介

2012年3月4日(日)より3月11日(日)までの8日間のプログラムが、National University of Singapore (以下NUS)の教員兼国際交流委員であるDr. Moon Fai Chan氏によって組まれた。表1に示したとおり、プログラムは、授業参加や施設見学、観光等がモジュール化され、それぞれのモジュールにバディ(案内やサポートをしてくれるNUS看護学部の学生)が世話役として参加し、教室の案内やさまざまな相談に乗ってもらえる体制をとっており、非常に盛りだくさんの内容を含んでいた。まさに、NUS看護学部を挙げてのサポート体制と言ってもよい。加えて、このバディシステムはのちに本学がNUSの学部学生を受け入れる際にも参考にした。

2. 引率教員からの研修内容等の報告

看護学部看護学科国際交流委員 家吉望み

1) はじめに

シンガポールは、マレー半島の南端に位置する国土面積710万平方キロメートルの東京23区とほぼ同面積の国である。経済成長は著しく、アジアNIEs (Newly Industrializing Economies) の1つとして東南アジアの経済を牽引する国でもある。人口は、500万人であり、中華系74%、マレー系13%、インド系9%、その他3%という多民族国家であり、公用語は4か国(中国語、英語、マレー語、タミール語)となっている。シンガポールの2010年度の平均寿命は男性81.6歳、女性84.1歳であり、出生率は1.15である。日本と同様に、少子高齢化が進んでいる。また、主な死因は、悪性新生物、心臓病、脳血管疾患であり、日本の現状と類似している。医療水準においては、政府が戦略的産業の1つとして医療育成に取り組んだことにより、高度な医療技術の提供と効率性のある医療制度を確立しており高い水準にある。

看護学部看護学科国際交流委員会メンバー

金井Pak 雅子(委員長)、島田将夫、前田樹海、掛本知里、臼井美帆子、家吉望み E-mail address : p-kanai@tau.ac.jp

2012シンガポール大学国際交流プログラム参加学生

新垣沙織(看護学部看護学科)、伊東愛(看護学部看護学科)

今回、本看護学科ではシンガポールの保健医療や看護教育を学び現地の学生との交流を目的に国際交流プログラム研修が実施された。2名の学生参加があり非常に有意義な研修であった。

表1 NUSにおけるTAU学生の研修プログラム

Date	4. Mar Sunday	5. Mar Monday	6. Mar Tuesday	7. Mar Wednesday	8. Mar Thursday	9. Mar Friday	10. Mar Saturday	11. Mar Sunday
Activities AM	Arrive 1740: JAL719	11:00-12:00 Welcome Tea Reception	Medical Surgical Nursing 2 Lecture	10:00-12:00 Health Care Ethics and Law Tutorial	10:00-12:00 Anatomy and Physiology 2	9:00-11:30 Visit to The Salvation Army Peace Heaven Nursing Home	Social Visit to Little India	Dep 0820: JAL712
Activities PM	Welcome dinner:	Visit to MD6 Simulation Center	15:00-17:00 Visit to National University Hospital	14:00-17:00 Psychology for Health Prof.	14:00-16:00 Anatomy and Physiology 2 Tutorial	15:00-17:00 Patho-physiology Tutorial	Social Visit to Little China Town Concert at Music Hall Prof. Onishi	

2) 研修の実際

研修は、NUSの看護学部で行われた。研修期間は、2012年3月4日～11日であった。研修プログラム内容は、看護学部の授業科目への参加、National University Hospital（以下NUH）、ナーシングホーム見学、看護学生との交流であった。

(1) シンガポールにおける看護教育

シンガポールでの看護教育は、一般的に専門教育（ポリテクニク）の看護学校で行われている。3年間の教育課程修了後に国家試験に合格した者が看護師（Registered Nurse）として登録される。NUS看護学部は2006年に開校し、シンガポール国内唯一の看護学士が得られる大学であり、NUS卒業生は国家試験免除となっている。

参加した授業はすべて英語で行われ、中国やオーストラリアやインドといった様々な出身国の教授陣が講義を行っていた。使用されていた教科書、参考書はアメリカのものが多く、シンガポール独自の教科書は作成されていないということだった。国際的なスタンダードを学んでいるため、将来国外で看護師として働く際にも問題はないということであった。

看護学部の設備では、シミュレーションシステムが充実していた。NUSの学生がシミュレーショントレーニングを実践していた。教員とシステムエンジニアが患者の容体を医療介入やケアによってシミュレーション人形を操作していた。このようなシミュレーションシステムは日本国内での教育体制とは異なっており、実践能力を高めるには効果的なシステムの1つであると実感した。

トレーニングルームはマジックミラーになっており、教員は部屋の外から学生の状況を見ながらシミュレーション人形設定を変更していた。学生は、自己判断しながらケアを実施し、実践的なトレーニング行われていた。

(2) シンガポールにおける医療システム

シンガポールの医療は、保健省が管轄し、国全体の病院を東側と西側で2分されている。東側はSingapore Health、西側はNational University Groupによって運営されている。医療の質の向上のため、病院間での競争を促すために2001年から設置されている。今回見学させていただいたNUHは西側の運営母体のNational University Groupに属している病院であった。

病院受診は、まずプライマリ・ヘルスケアを担当する家庭医を受診し、必要があれば専門医のいる病院へ紹介となるシステムとなっていた。医療保険は、中央積立基金（Central Provident Fund）と呼ばれる積立制度があり、患者は医療費積立から希望額を国の規定内で下し、支払うということであった。しかし、多くの患者は積立基金では賄えないため、独自に医療保険を購入し併用して医療費を支払っているとのことだった。

(3) 看護学生との交流

全日程中、バディが授業だけでなく、放課後も観光地を案内してくれた。彼らの多くは、日本語を学んでおり片言の日本語で積極的に交流を持ってくれた。シンガポールの様々な文化に触れる機会を作ってくれ、彼らのホスピタリティに感激した。

3) 終わりに

今回訪問したNUSは広大な土地に建てられた大学だった。学内を巡回バスが走り、いくつもの講義棟や演習棟が立ち並び、緑と近代的な建物のコントラストが美しい場所であった。朝のバス内や、カフェテリア、夜間のコーヒーショップでも常に学生達が学んでいる姿があった。学問に取り組んでいるという真摯で真剣な姿に何度も出会うことが出来た。

また、研修の最終日にはNUSでの音楽会に参加できる機会をいただき、オーケストラの音楽に耳を傾けながら素敵な時間を持つことが出来た。

今回の研修を通して、世界における看護教育と日本の看護教育の違いを肌で感じ、グローバル化が進む中で、今後日本においても語学力はもちろん、積極性や真摯に学問を学ぶ姿勢が今以上に必要であることを強く感じた。

最後になったが、シンガポール国際交流では多くの方にお世話になった。この場を借りて感謝の気持ちを伝えたい。

参考資料

- 1) Department of Statistics Singapore <http://www.singstat.gov.sg/stats/keyind.html#note2> (2012/09/26)
- 2) National University of Singapore <http://medicine.nus.edu.sg/nursing/> (2012/09/26)

3. 参加学生2名からの報告

看護学部看護学科3年 新垣沙織

今回私たちは、平成24年3月4日から3月11日までの8日間に行われたシンガポール大学国際交流プログラムに参加しました。シンガポール国立大学にてシンガポールの保健医療システム、看護教育システムを学び、そして、シンガポール国立大学付属病院見学、学生との国際交流を行いました。

看護教育では、シミュレーションシステムを導入し、より実践に近い演習を行っており、学生一人に対して一体の人形の模擬患者がおり、教室の外から教員が人形の循環動態を操作し、模擬患者の訴えなども教員が状況を見て行います。そのため、学生自身の知識と応用力が高く求められます。演習を行なっている学生は、冷静沈着で現状での問題点を即座に把握し対処しており、実践力の高さにとても驚きました。学生の中から個人の知識の応用や突発的な問題にも対応出来る臨機応変な思考能力を養っており、このような教育体制がより質の高い看護師を育てるのだと学びました。

そして、学生一人一人の積極性にも驚きました。ディベートの授業を見学した際、感じたことは、授業中など日本の学生は受動的な態度で参加している事が多いですが、シンガポールでは積極的に発言している学生が多く見られ、ディベートなどの授業でも討論時間を最大限活用し発言している姿が印象に残りました。そして、シンガポールは多民族国家なため一つの物事に対して様々な視点から発言がみられた事で刺激になり、物事に先入観を持たずに観察することの重要性を改めて再認識し視野が広がりました。

今回の研修は8日間という短い期間でしたが、食欲に様々なものを吸収したいと考え、たくさんの方と交流し、密度の濃い研修期間を送れたと感じました。多民族国家ならではの様々な人種の方がいる中で、お互いが共存し合いながら生活されており、この事から様々な意見が融合し生まれていく事が分かりました。

そして、研修に際して言語力に対する不安を多く感じましたが、引率して下さった先生方、友人からコミュニケーションの方法についても様々な学びが出来、私の拙い英語を現地の学生は一生懸命聞き取って下さり、交流を深めることが出来ました。そして、研修に参加し看護のあり方や学生の食欲に物事を吸収したいと思う積極性の高さに驚き、かつその姿勢を見習わなくてはと強く考えました。この体験を通して学んだ事を今後の看護の勉強に生かし、さらなる学びの探求に努めたいと感じました。

看護学部看護学科3年 伊東 愛

今回私たちは、2012年3月4日～3月11日の期間で、シンガポール国立大学看護学部や、シンガポール国立大学付属病院の見学を通して、シンガポールの保健医療システムや看護教育システム、シンガポールの病院のシステムと現状について、たくさんの学びを得ることができました。

今回研修させて頂いたシンガポール国立大学は、シンガポール国内で看護が学べる唯一の大学でした。そのため、国を挙げての看護教育にはとても熱が入っており、最先端のシミュレーションシステムを用いた学内実習や、現場さながらの状況が設定された高度な実技試験には、とても衝撃を受けました。また、看護学生のモチベーションも高く、教授の問いかけに素早く反応を示したり、自発的に意見を述べたりと、とても積極的な姿勢が見受けられました。授業には多くのディベートが取り入れられており、それによって多面的に物事を検討することで医療の難しい問題に向き合い、深く考察するシンガポールの看護学生の姿勢は、同じ看護学生として大きな刺激となり、模範にしなければならないと感じました。

シンガポールは多民族国家であることから、様々な文化や宗教が尊重されており、これは医療現場にも大きく影響しています。シンガポール国立大学付属病院では、患者の宗派をベースに個別性のある看護がなされていました。各病室には日本のICUのように、小さなナースステーションが設置されていたり、窓が開けられてシーリングのまわっている開放的な病室には、自然な空気や陽光が差し込み、心地よい病室環境が整っていました。このような環境は、日本の病

院とは全く違う印象を受け、自然の光や風を積極的に療養環境に取り入れることで、開放的な感覚が患者のメンタル面にも良い方向に働きかけるのではないかと感じました。

シンガポール海外研修プログラムに参加し、シンガポールでサポートして下さった現地の先生方や学生との交流を通して、現地学生の看護に対する積極的な姿勢とその目的意識の高さから、多くの刺激を受けることができました。また、国際的な看護の視点を学ぶことができたことは、現代医療や看護のあり方を見つめる良い機会となり、8日間の研修は私にとって大きな自信へとつながりました。今回の経験を機に、今後何事にも向上心を持って積極的に看護の現場で学びを深めていきたいと思います。

4. 事前英語研修（集中英語研修）

看護学部看護学科国際交流委員 島田将夫

本学の現行の言語教育課程においては、「英語Ⅰ」および「英語Ⅱ」で、一般学術目的の英語（English for General Academic Purposes）の運用力が鍛えられ、さらに「英語コミュニケーション（John Pak先生ご担当）」を履修することにより、英語文化圏にて英語で社会的に適切な言動が行えるようになるための英語ソーシャルスキルが鍛えられる。しかしながら、海外の病院や医療保健施設の見学および看護系大学や医療教育機関等での研修を受けるに際して、研修先でより多くの専門的な情報を得て、より多くの学生や教員や医療関係者と学術的な交流を深めるには、看護専門分野に特有な学術的英語技能が必要となる。看護領域に焦点を定めた特定学術目的の英語（English for Specific Academic Purposes）、すなわち、英語文化圏の看護コミュニティで常識として運用される言語知識や表現をあらかじめ強化しておけば、研修から得られる成果が飛躍的に大きくなることが期待できる。

上記の観測に基づき、研修出発直前の英語研修として、看護関連の文献から抜粋した100語～300語程度の英語文章課題を準備した。基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度などのトピックからそれぞれ、基本的ながらも読み応えのある内容の文章を選抜した。総合すると、専門領域の語彙およそ1,000語程度が含まれている。

演習は学内にて、後期授業や実習等の合間を縫うように行った。平成23年12月27日（3時間）、平成24年2月4日（合計4時間）、2月10日（合計4時間）、2月17日（合計5時間）、2月21日（合計4時間）、2月27日（合計6時間）、3月1日（合計4時間）に演習を実施し、総合計30時間の訓練を行った。選定した英語文章においては少なくとも、読解力とリスニング力で英語母語話者に比して遜色ないぐらいにまで鍛えることを目標とした。そこで、選定した文章に関しては、読解では分速200語程度に、リスニングでは秒速5音節程度にそつなく対処できるようになることを目標とした。平均的な英語母語話者の自然な言語処理速度と同等である。今回、研修に参加した学生は皆、非常に粘り強く熱心に取り組み、研修出発直前の限られた時間内でこの目標を達成した。

Ⅲ. シンガポール大学研修生の受け入れ

1. 院生による研修

2012年5月から6月にかけて、NUSよりEugene TEOH Yen Tjuin氏（以下ユーージェン）ならびにAngeline LIM Guat Hiong（以下アンジェリン）の2名の博士課程学生を受入れた。ユーージェンは5月27日から6月9日まで、アンジェリンは6月3日から6月16日まで日本に滞在した。滞在中の活動を表2に示す。

NUS博士課程学生の訪問は博士課程のコースワーク（Independent Study：NUR5003）の一環として実施されたものである。各学生はそれぞれ自分の学問的関心に沿って設定した目標を達成することがコースワークの課題である。以下に、各人の申告した学習目標およびその方法論を列挙する。

ユーージェン：

- ・シンガポールと日本との看護教育の提供、実践、政策に関する類似点と相違点の探索
- ・シンガポールにおける看護教育の現在の傾向と将来への影響に関する理解
- ・シンガポールにおける看護教育の開発および実践を高めるための看護教育者との国際的なネットワークの確立

アンジェリン：

専門的目標

- ・セミナーや討議を通して海外の研究者と協働することにより研究領域を豊かにする
- ・保健医療システムを理解するための高齢者を対象とした教育病院の視察
- ・高齢者がどのように暮らしているかを理解するためのナーシングホームの視察
- ・ナーシングホームの暮らしについて高齢者に聞き取りを実施

表2 シンガポール大学大学院生研修スケジュール

日 付		Eugene	Angeline
5月27日(日)	5:15	羽田空港到着 (JL712)	
5月28日(月)	10:00	オリエンテーション・キャンパスツアー	
5月29日(火)	10:40-12:10	講義:「Nursing Management」	
5月30日(水)	14:30-15:00	学長挨拶	
5月31日(木)			
6月1日(金)		歓迎会	
6月2日(土)			
6月3日(日)	5:15		羽田空港到着 (JL712)
6月4日(月)	10:00		オリエンテーション・キャンパスツアー
	14:30-15:30	施設見学: がん研有明病院	
6月5日(火)	15:00-16:00	院生によるプレゼンテーション	
6月6日(水)	10:00-12:00	施設見学: パール代官山(特別養護老人ホーム)	
6月7日(木)	10:00-11:30	施設見学: 済生会中央病院	
6月8日(金)	9:30-11:30	日本看護協会訪問	
	13:30-15:30	施設見学: 東京老人総合研究所	
6月9日(土)	6:25	羽田空港出発	
6月10日(日)			
6月11日(月)	10:40-12:10		講義:「Nursing Administration」
	12:10-13:00		院生によるプレゼンテーション
6月12日(火)	13:00-14:00		講義:「Gerontology」
6月13日(水)	9:00-12:00		施設見学: 高齢者施設
	14:00-15:00		教員との意見交換会
6月14日(水)	12:00-13:00		学生と昼食会
6月15日(木)	12:30-13:30		演習: シミュレーターを用いた演習
6月16日(金)	6:25		羽田空港出発

一般目標

- ・医療の提供に関するシンガポールと日本との比較対照
- ・シンガポールと日本において、政策が医療提供に及ぼすインパクトの評価
- ・選択した国においてネットワークを確立することが、シンガポールにおけるさらなる(教育を含む)医療の発展にどのように使用しうるのかの提示

これらの学習目標を実現するためのプログラムは、各学生の希望も取り入れながら、表2のように設定した。プログラムの内容は、学内の授業参加、教員や学生との交流、施設見学に大別される。本稿では両名が共通に行なった施設見学について概略を述べる。

6月4日(月)に、日本有数のがん専門病院であるがん研有明病院を訪れ、看護部長を表敬訪問したのち、副看護部長、看護師長から病院の説明を受け、その後緩和ケア病棟、外来治療センターの見学を行なった。

6月6日(水)には高齢者福祉施設のパール代官山を訪問し、看護の責任者から施設の説明を受け、その後、入所施設およびデイサービス施設の見学を行なった。

6月7日(木)には、済生会中央病院を訪れ、院長を表敬訪問したのち、副看護部長および教育主任から病院の説明を受け、その後院内の見学を行なった。

6月8日(金)は、午前中に日本看護協会を訪問し、午後から東京都長寿健康医療センターを見学した。日本看護協会では、国際部部長から、日本の看護制度や政策、問題点等について説明を受け、シンガポールと比較しながら活発な意見交換を行なった。東京都長寿健康医療センターでは、センター長、看護部長らにセンター事業および病院の説明を受けたのち、病院見学を行なった。

病院において看護教育を担当しているユージーン、および高齢者看護に関心のあるアンジェリンとともに、非常に有意義な時間を過ごすことができた。これもひとえに突然の依頼にもかかわらず快く学生を受入れていただいた各施設のおかげである。この場を借りて御礼申し上げる。

2. 学部生による研修

シンガポール大学看護学部の学生6名が、約1週間にわたり、本学において研修をした。目的は、日本の保健医療システムについて知ること、学部生との交流、さらには、日本文化の学習である。

研修初日は、櫻井理事長、佐藤学長、金井学部長へのご挨拶の後、午後からは日本の看護教育や医療制度について講義を受けた。夕方からは、カフェテリアにおいてウエルカムパーティに参加。看護学科の教員のほかに、パディとしてお世話をする看護学科の学生も参加して、大変和やかな雰囲気であった。

研修2日目は、看護学科3年生との交流として、まずシンガポール大学の学生からシンガポールについて、歴史、文化、食事、観光スポットなどについて、パワーポイントを使ってプレゼンテーションがあった。特にシンガポールは、中国系、マレーシア系などさまざまな人種がいるため、イベントや食文化も本当にさまざまである。3年生との交流では、グループに分かれて、本学の学生も英語とボディランゲージを使いながら、学生生活などについて情報交換していた。シンガポールの学生は、アルバイトをすることはなく家に帰ってもかなりの時間、勉強しているとのことで、本学の学生がアルバイトをしていることを聞き、大変驚いていた様子であった。午後からは、病院見学として東京女子医科大学東医療センターに出かけた。東京女子医科大学東医療センターでは、看護部長から病院および看護部の概要について説明していただいた後、院内の見学をさせていただいた。学生は、自分たちが実習で担当したケースなどの話と比較し、日本の保健福祉医療の制度などについて質問をしていた。

研修3日目は、日本文化の日として、習字、折り紙に挑戦した。シンガポールの学生たちは、習得が大変早く、習字の筆を使いこなしていた。また折り紙では、難しい鶴にも挑戦し、その完成度は素晴らしいものであった。また6名の学生ひとりひとりに浴衣と下駄のプレゼントが匿名であり、着付けをすると、皆はしゃいでいた。その浴衣をきて、和室に正座、本学鍼灸学科の高倉教授のお点前でお茶が立てられた。もちろん最後は、皆立つことすらままならないくらい、足がしびれていた。

お昼は、おにぎりをつくることに挑戦した。それぞれに器用に握っており、本学の学生も参加しランチパーティーとなった。午後からは盆踊り大会で、花田ホールに集合した。事務の方々のご協力で花田ホールが提灯に彩られ、華やかな雰囲気となり、簡単な駄菓子の出店も出て、本学の学生や教員たちと一緒に盆踊りを楽しんだ。

研修4日目は、フィジカルアセスメントの講義と演習、そして伝統医療である鍼治療について、高倉教授から講義を受けた。

研修5日目は、訪問看護パリアンへの見学に出かけた。訪問看護パリアンでは、最初に訪問看護師に同行し、終末期を在宅で過ごされている方々に対する訪問看護の実践について見学実習をさせていただいた。学生は日本の普通のお宅に伺わせていただくのも、在宅療養の場を見学させていただくのもそれぞれ初めての機会であり、大変興味深かったようで、訪問看護師をはじめ、利用者やご家族の方にもいろいろと質問をしていた。その後、パリアンの川越医師から日

表3 シンガポール大学学部生研修スケジュール

日 程	時 間	内 容
6月17日(日)	16:25	成田空港到着 (JL712)
	10:00	オリエンテーション・キャンパスツアー
	11:00	学長および学部長挨拶
	11:30	理事長挨拶
	13:30~16:00	講義:「Health care system and nursing education in Japan」
	16:30~18:30	Welcome Party (於: カフェテリア)
6月19日(火)	9:00~10:30	本学看護学科3年生と交流
	12:00~15:00	東京女子医科大学東医療センター訪問
	15:00	東京下町探訪
6月20日(水)	9:00~16:00	日本文化体験(折り紙・習字・浴衣着付け・茶道・盆踊り)
6月21日(木)	9:00~10:30	講義:「フィジカルアセスメント」
	10:40~11:30	講義・デモンストレーション:「鍼灸」
	13:00~14:30	まとめ
	14:30~14:30	有明・お台場散策
6月22日(金)	10:00~10:30	訪問看護パリアン訪問(講義および訪問看護師と同行訪問)
	13:00	研修終了

本の在宅医療や在宅終末期医療などについて講義していただいた後、パリアンのデイホスピスのボランティアの方々に昼食をごちそうになりながら、デイホスピスやボランティアのことなどについて質問をするなど、いろいろとお話をさせていただいた。

修了証書授与式では、シンガポールの学生さんたちが作成した千羽鶴が本学に送られた。千羽鶴は、ホテルに帰ってから皆で作成したそうで、英語や日本語のメッセージもあり、短い時間に本当に素晴らしい贈り物をつくりあげてくれた。

夕方や週末は、本学の学生が東京の街の散策にバディとしてアテンドした。本学の学生にとっても、今回の交流を通じて同じ看護を勉強している学生同士の交流を深めたようである。

IV. まとめ

今回初めての国際交流ということで、シンガポール大学との交流が始まった。アジア諸国の医療や看護については、日本であまり紹介されていないのが現実である。特に日本の看護界は、戦後欧米の看護について多く取り入れてきた経緯がある。米国や英国の看護についての訳本もかなり出版されている。しかし、同じアジア諸国の看護や看護教育の実態については、あまり知られていない。今回の交流を通じてアジアの看護に目を向けるよいきっかけとなった。看護学科国際交流委員会としては、今後はさらなるアジア諸国との連携や、その他の国の大学との交流を模索している。また、学生のみならず、教員同士の共同研究にも発展していくべく、その基盤作りを手がけていくことになる。

2012年第1回シンガポール大学短期研修(2012年3月)

世界各国の大学から来た学生たちと合同授業風景と交流



シンガポール大学やシンガポール大学病院見学



研修最終日、シンガポール大学看護学部
学部長から、Certificateの授与



研修の合間にシンガポールを満喫



2012年第1回有明保健医療大学短期研修(シンガポール大学看護学部および大学院学生)(2012年6月)

